

## 三部門・全課題が受賞しました 令和二年度 業務研究発表会

十一月五日(木)、林野庁において、令和二年度国有林野事業業務研究発表会が、web会議システムにより開催されました。

四国局から以下の三部門に三課題を発表した結果、森林ふれあい・地域連携部門、森林保全部門で「林野庁長官賞(最優秀賞)」、森林技術部門で「日本林政シヤーナリスト会長賞」を受賞しました。

### 森林技術部門

○「高齢級ウバメガシ林分の更新試験について」(日本林政シヤーナリスト会長賞)

辻 周子(四万十署)

中村 咲恵(いの町役場)

### 森林ふれあい・地域連携部門

○「木の文化を支える活動(「シラクチカズラの資源確保と活用を推進するための連携協力に関する協定」に基づく活動)

(林野庁長官賞 最優秀賞)

安光 圭一(徳島署)

丸田 泰史(徳島署)

宮田 健一(徳島県三好市)

### 森林保全部門

○「獣害防護柵と忌避剤を用いたノウサギによる被害防止の取組みについて」

(林野庁長官賞 最優秀賞)

渡邊 由一(森林技術・支援センター)

中村光太郎(愛媛署)

発表された皆さま、ご苦労さまでした。

## ふおっと(photo) ひといき



色づく頃 大荒の滝(高知中部署管内)  
02.11.05撮影

### 【編集後記】

令和2年も、残すところ2ヶ月。未だ、コロナの感染拡大が続いています。引き続き、自分の体調管理と自分ができる対策に努めましょう。



## 「セイタカアワダチソウ」 って (キク科)



秋になると、河原や空き地で背が高く鮮やかな黄色の花をつけるセイタカアワダチソウが見られます。10年ほど前には猛威をふるいました(写真 三原村にて)。

セイタカアワダチソウは、北アメリカ原産で、戦後日本に渡ってきたといわれる帰化植物ですが、わずか20~30年の間に日本全土に広がりました。

その原因として、初期の頃、養蜂業者が蜜源植物として利用する目的で全国に植えたため、また、この草は、種子の発芽率がよい、生長が速い、地下茎の繁殖力が強い、さらには、この草が好む休耕地、埋め立て地、造成地などの環境を人間が自然を改造して作り出したことも大きな原因です。

当時植物の専門家は、セイタカアワダチソウのような帰化植物の多くは、遷移の初期に出現する植物なので少し時間をおけば他の植物におきかわっていきはす。放っておくのが得策、と提言していました。

(街の自然観察 矢野 亮より)